

御家人の不満と幕府の滅亡

1 / 1

旧石器

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

今日の問い

元寇の後、御家人はなぜ苦しくなり、鎌倉幕府はどのように滅んだのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 御家人の不満と幕府の対応

御家人の不満

おんしょう
恩賞

戦いの手がらにに応じて与えられる領地などのほうび。

ぶんかつそうぞく
分割相続

武士の一族が領地を分けて相続するしくみ。

えいにんのとくせいれい
永仁の徳政令

1297年、御家人が手放した領地をただで取り戻させた法令。

もうこしゅうらいえことば
蒙古襲来絵詞

竹崎季長が描かせた、元軍と戦う御家人のようすをえがいた絵巻物。

元寇は防衛戦だったため、幕府は新しい領地を得られず、戦った御家人に十分な恩賞を与えられなかった。肥後(熊本県)の御家人^{たけざきすえなが}竹崎季長が描かせた^{もうこしゅうらいえことば}蒙古襲来絵詞には、恩賞を求めて鎌倉へ出向いた姿もえがかれている。

さらに、領地を一族で分けて受け継ぐ分割相続で領地は小さくなり、借金のために領地を手放す御家人も増えた。幕府は1297年、手放した領地をただで取り戻させる永仁の徳政令を出したが、効果は長く続かず、かえって混乱を招いた。



2 鎌倉幕府の滅亡

幕府の終わり

ごだいごてんのう
後醍醐天皇

天皇中心の政治を目指し、幕府をたおそうとした天皇。

あしかがたかうじ
足利尊氏

幕府にそむき、京都の六波羅探題を攻め落とした有力な御家人。

にったよしただ
新田義貞

幕府にそむき、鎌倉を攻め落とした御家人。

御家人の不満が強まり、幕府の力がおとろえる中、天皇中心の政治を目指す^{ろくはらたんだい}後醍醐天皇が、幕府をたおそうとした。計画はいったん失敗したが、^{くすのきまさしげ}楠木正成など近畿地方の武士が天皇方について戦い、倒幕の動きは各地に広がった。

やがて、幕府の有力な御家人であった足利尊氏や新田義貞も幕府にそむいた。1333年、尊氏が京都の六波羅探題を、義貞が鎌倉を攻め落とし、鎌倉幕府は滅亡した。源頼朝が開いてから、約150年続いた幕府であった。

幕府がほろびると、後醍醐天皇は京都にもどり、天皇が自ら行う新しい政治を始めた。しかし、その政治も長くは続かなかった。

問いへの答え

元寇は防衛戦だったため、幕府は御家人に十分な恩賞を与えられなかった。分割相続で領地が小さくなった御家人は生活に苦しみ、永仁の徳政令も効果が続かず、幕府への不満が強まった。その中で後醍醐天皇が倒幕をはかり、楠木正成らが天皇方について戦い、足利尊氏や新田義貞も幕府にそむいて、1333年に約150年続いた鎌倉幕府は滅亡した。

次はノートで、下線に語句を書きながら確かめよう →

